

2022年6月13日

三菱地所株式会社
株式会社パルコ
日本郵政不動産株式会社
明治安田生命保険相互会社
株式会社中日新聞社

「(仮称) 錦三丁目 25 番街区計画」 着工 ～名古屋の新たなランドマークとなるシンボルタワーが栄に誕生～

三菱地所株式会社、株式会社パルコ、日本郵政不動産株式会社、明治安田生命保険相互会社、株式会社中日新聞社の5社は、名古屋市中区錦三丁目において推進する「(仮称) 錦三丁目 25 番街区計画」(以下、「本計画」)の新築工事に関し、2022年6月13日に起工式を執り行ない、2022年7月1日に着工します。「名古屋の新たなランドマークとなる国内外の文化・交流価値創造拠点」をコンセプトに、栄エリアの都市機能強化をめざします。本計画の竣工は2026年3月、施設の開業は2026年夏頃を予定しております。

本計画を通じ、愛知県や名古屋市が進める都市のブランド力向上に資する高級ホテルの誘致等栄エリアの重層的な都市機能整備を推進することで、周辺エリアの賑わいをさらに高めるとともに、名駅エリアと合わせた2核両輪で名古屋市の国際競争力強化に貢献してまいります。

【本物件の特徴】

- ① 名古屋の新たなランドマークとなるシンボルタワー（約211m）が誕生
- ② ホテル、オフィス、シネコン、商業施設の4用途が集積し、国際競争力の強化と賑わいを増幅
 - ・ホテルゾーンは米ヒルトンのラグジュアリーブランド「コンラッド・ホテルズ&リゾーツ」が進出
 - ・シネコンゾーンは「TOHOシネマズ」が栄エリア初進出
 - ・商業ゾーンは「パルコ」による高級商業施設を整備
- ③ 地上・地下のネットワークと屋上広場の整備により、エリアの回遊性を向上
- ④ 環境に配慮した建物計画と防災性の向上



▲昼間外観イメージ（南西側）

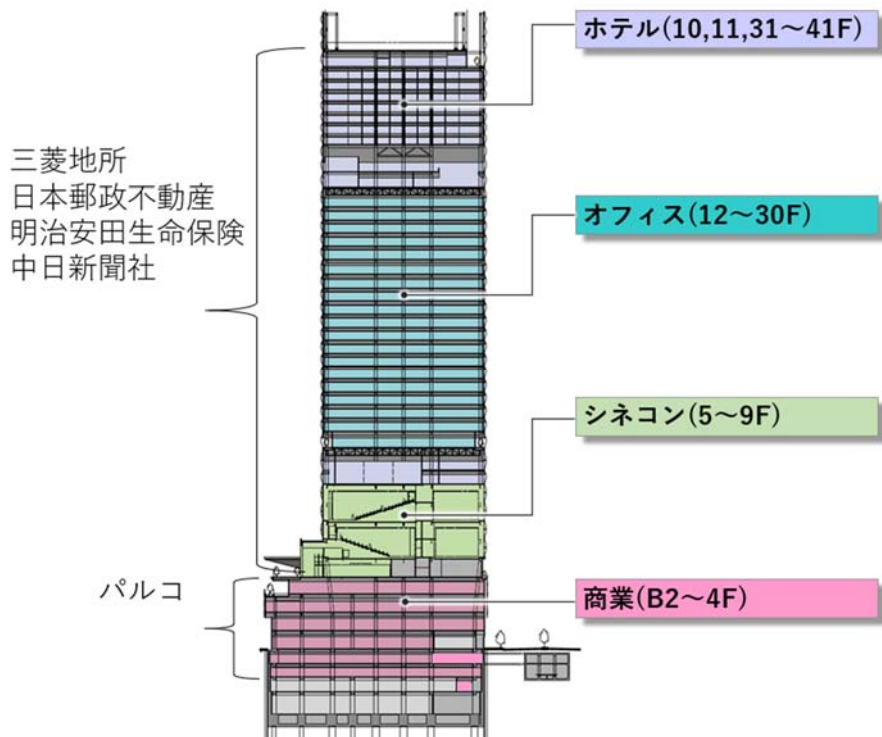


▲夜間外観イメージ（南東側）

①名古屋の新たなランドマークとなるシンボルタワー（約211m）

【建物概要・権利関係】

本計画は区分所有建物となり、低層部はパルコが所有し運営する高級商業施設、中・高層部は三菱地所・日本郵政不動産・明治安田生命保険・中日新聞社が共有し賃貸するシネマコンプレックス・オフィス・ホテルが配置されます。



②ホテル、オフィス、シネコン、商業施設の4用途が集積

【ホテル】

ホテルゾーンは米ヒルトンのラグジュアリーブランド「コンラッド・ホテルズ&リゾーツ」が進出し、国内外の富裕層観光客、VIP など新たな顧客層の獲得に寄与することで名古屋の都市ブランド力向上に貢献します。31~41階に位置する計170室の客室（うち、スイートルームが29室）は、スタンダード客室で面積が約50㎡と、名古屋地区で最大級の広さとなります。31階にはレセプションロビーや料飲施設であるオールデイダイニング、32階にはスパ・プールとジム、40階には名古屋の豊かな眺望を楽しむことのできるルーフトッパーを設けます。また、10階、11階には国際MICE^(注1)に対応したボールルーム、会議室等を用意します。

(注1) 企業等の会議、報奨・研修旅行、国際会議、展示会・見本市等の総称



▲オールデイダイニング（イメージ）

【オフィス】

12階には3層吹き抜けのスカイロビーを設け、オフィスへ訪れる全ての人に開放的な空間を提供します。15～30階には総貸付面積約25,000㎡（約7,500坪）、基準階面積約1,600㎡（約480坪）のオフィスを整備し、名古屋城や名駅地区、テレビ塔を見渡すことができる唯一無二の眺望とともに、様々な働き方に合わせたレイアウトにも対応できる無柱空間が新しいワークスタイルを実現します。13階、14階には、新たなビジネスの創発を目的に、コワーキング、カンファレンス、ライブラリー、プライベートワーキング機能等を整備し、これらを連続する2フロアに集約することで、企業、学生、市民等の多様な人々のコラボレーションを創出します。



▲スカイロビー（イメージ）

【シネマコンプレックス】

5～9階には、栄エリア初となるシネマコンプレックスを整備し、TOHOシネマズ株式会社が運営する「TOHOシネマズ」が進出します。最新の設備・機器を導入した本格的シネマコンプレックスを計画しており、国内外の映画コンテンツのほか、コンサートや演劇、スポーツのライブビューイング（生中継）などの非映画コンテンツの上映により、年間を通して安定した賑わいを栄エリアに形成します。シネマコンプレックスは商業施設の上階に位置し、ロビーを商業施設につながる屋上広場に面し配置することで、商業施設へのシャワー効果および施設内の回遊性を高めます。



▲シネコンロビー（イメージ）

【商業施設】

地下2階～地上4階には、株式会社パルコによる高級感のある新たな商業施設を展開します。商業部分全体を舞台と見立て、地上1～3階におけるファサード^(注2)部分は舞台の幕があがる様子表現しており、演劇の幕開けと同様に訪れた方々の感性に響く豊かな体験を提供します。また、J.フロントリテイリンググループの既存施設である松坂屋名古屋店、名古屋 PARCO 等と相乗効果を図りながら、栄地区の魅力向上をめざします。

(注2) 建築物正面部のデザイン

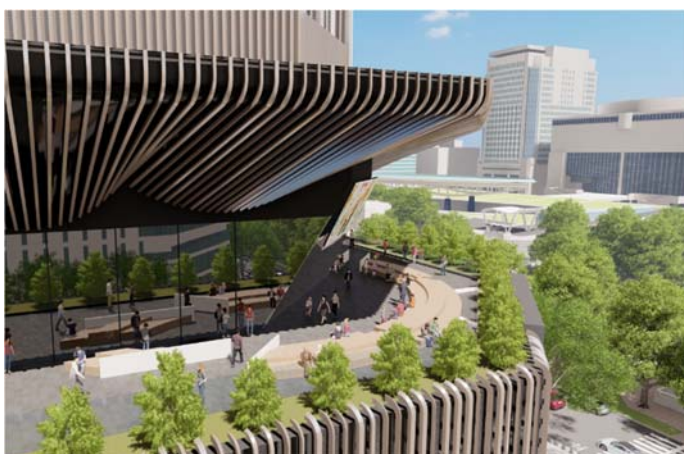


▲1階エントランス（イメージ）

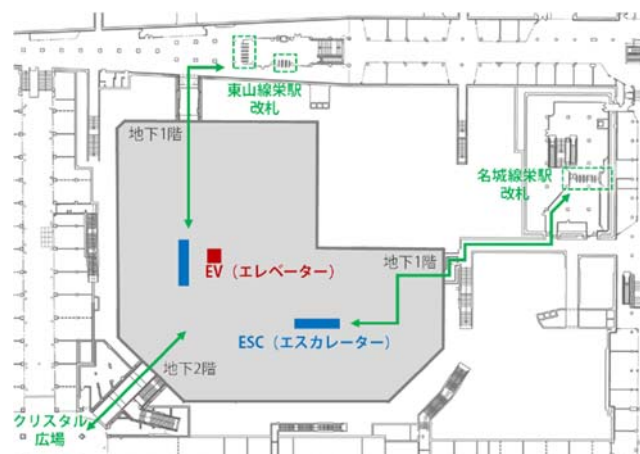
③地上・地下のネットワークと屋上広場の整備により、エリアの回遊性を向上

久屋大通、広小路通、錦通、大津通の4つの大通りに囲まれた立地を活かしたアプローチおよび地下鉄（東山線・名城線）、地下街（クリスタル広場）との接続を行ない、建物内に複数のエレベーター・エレベーターを整備することで利用者が地下と地上とをバリアフリーで自由に行き来できる歩行空間を実現します。

さらに、低層部4階、5階の屋上には、それぞれ商業施設、シネコンロビーと隣接した広場を設け、ショッピングや映画鑑賞の合間に久屋大通公園の眺望を楽しみながら、くつろげる憩いの空間を整備します。



▲低層部4階、5階の屋上イメージ



▲地下鉄・地下街との接続イメージ

④環境に配慮した建物計画と防災性の向上

【環境】

- ・ 自然エネルギー利用等の導入により省エネルギーをめざすとともに、「名古屋市建築物環境配慮制度（CASBEE 名古屋）」において、S ランクの建築物をめざします。
- ・ 計画敷地内で緑化面積 20%以上を確保し、久屋大通公園への眺望や周辺との調和を意識した屋上広場の緑化や生育環境に配慮した緑化等により、ゆとりある都市環境の創出、ヒートアイランド現象の緩和に寄与します。
- ・ 本計画建物内に地域冷暖房を導入することでエネルギーロスの最小化を図ります。また、建物のエネルギー需要を予測し、供給するデマンド運転の採用、および熱源・電源と空調・照明などを最適制御するエネルギーマネジメントシステムである BEMS と連携することで、省エネルギー化を実現します。

【防災】

- ・ 伏見・栄地区都市再生安全確保計画に位置付けられる本計画は、複数の非常用発電機および防災備蓄倉庫を整備し、災害時における帰宅困難者の受け入れを 72 時間行ないます。

■周辺地図



▲広域図



▲狭域図

■「(仮称) 錦三丁目 25 番街区計画」概要

所在地：名古屋市中区錦三丁目 2501 番 1、2501 番 2、2514 番
交通：地下鉄東山線・名城線「栄」駅直結
敷地面積：4,866.40 m²
延床面積：約 109,700 m²
階数・高さ：地上 41 階、地下 4 階、塔屋 1 階・高さ約 211m
構造：鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造
主要用途：ホテル、オフィス、シネコン、商業、駐車場
事業者：三菱地所株式会社、株式会社パルコ、日本郵政不動産株式会社、
明治安田生命保険相互会社、株式会社中日新聞社
設計：株式会社三菱地所設計、株式会社竹中工務店
監理：株式会社竹中工務店
コンストラクションアウト：株式会社三菱地所設計
新築施工者：株式会社竹中工務店
新築工事着手：2022 年 7 月 1 日
竣工：2026 年 3 月（予定）
開業：2026 年夏頃（予定）

以上